

トウガラシ微斑ウイルス (PMMoV)

Pepper mild mottle virus



伏見トウガラシ果実の退緑症状



伏見トウガラシ葉の不明瞭なモザイク症状

病徴と被害

ピーマン・トウガラシ類やタバコに感染する300nmの棒状のウイルスです。葉や果実に不明瞭なモザイク斑や退緑症状を生じる「モザイク病」になり減収します。

土壌中の残さ等から感染し、ハサミ等に付いた感染株の汁液を介して感染が広がります。

※ nm(ナノメートル) = 10^{-9} メートル

防除対策

ウイルス病には化学農薬が効かないので、感染した株は根ごと抜き取って拡大を防ぎましょう。残さの腐熟促進、抵抗性品種や台木の導入、根を傷つけない定植方法なども有効的です。ワクチン(弱毒ウイルス)※を接種して予防しましょう。

※ワクチンは(独)農研機構、民間企業と京都府が協力して開発しました。